

## 巻頭写真 三方低地帯南部の黒田における完新世埋没林 (Holocene buried forest at Kurota in the Mikata Lowland along the Japan Sea)

若狭湾沿岸の三方低地帯南部の黒田では、水田中に根木と呼ばれる立株の存在が知られており、水田耕作の邪魔になるので厄介視されてきた。1988・1989 両年にわたって黒田地区の圃場整備工事が実施され、重機によって水路の掘削が行われた。その際、立株の埋没状態を観察するのに恰好の地層断面が現れるとともに、多量の埋没立株が掘り起こされた。三方町教育委員会の協力を得て、埋没層位や埋没林の復元調査を進め、これまでに、埋没立株の年代が約 4300~3000 年前と約 2000~1600 年前に集まること、立株として産するものにはスギ、ハンノキ亜属、トネリコ属などがあり、これらが同所で生育していたこと、古い方の埋没立株群は木本泥炭層に含まれており、縄文時代後半期の日本各地の木本泥炭層の産状と類似性が高いことなどが明らかになってきた。低地帯における生態系の歴史的变化を解明する上で重要な資料を提供しつつある。写真1は水路掘削面に現れたスギ埋没立株である。写真2は重機で掘り起こされたスギ埋没立株である。スコップおよびスケールは長さ1mである。(辻 誠一郎 Sei-ichiro TSUJI)

